

令和 7 年度第 1 回市民と議会のつどい（議会報告会）実施報告書

開催日時	令和7年8月2日（土）午後1時30分～3時30分	
開催場所	加茂文化センター 2階 第1・第2研修室	
担当議員	班代表者	森本 隆
	司会者	堤 征一郎
	報告者	谷川 光男
	記録者	谷口 英子、宮嶋 良造
	班員 (上記以外)	柴田 はすみ、草水 基成
参加人数	10人	
主な質疑の区分：「議」＝議会運営・議会基本条例関係 「行」＝行政関係		
主な質疑・意見等	Q行：水道料金の値上げについて、「市民の負担軽減のため」として、一部前倒して段階的に値上げすることが、市民負担の軽減になるのか理解できない。値上げの理由をもっと詳しく知りたい。	
	Q行：暑く雨も降らないので、毎日の水やりも大変。なぜ、25%も値上げするのか。値上げは困る。市民に分かりやすく説明してほしい。	
	Q行：水道料金を25%上げるとのことだが、困る人もいたので、十分に考えていただきたい。	
	A：市の新水道ビジョンの中でも人口減少と施設の老朽化が大きな課題とされている。持続可能な水道事業のためにも多くの資金が必要になる。これまでは基金を使ってしのいできたが、基金も減少しなくなる。水道料金の引き上げ（利用者の負担）が必要になり、議会で審議される。	
	A：市水道料金及び公共下水道使用料審議会で昨年8月から審議され、当初は令和9年1月から25%の値上げ予定だったが、3月議会の産業建設常任委員会で意見が可決し、審議会において、令和8年4月に15%引き上げ、令和10年4月に10%引き上げる内容になっている。12月議会に市長から条例改正が提案されるだろう。	
主な質疑・意見等	Q行：瓶原土地改良区として大井手用水の改修に財源が足りなくて困っている。過疎債が使えないのか。	
	A：過疎債は予算では令和6年度4,610万円、7年度1億450万円で事業を行う。ハード事業では、加茂文化センターの空調・照明設備の更新等や道路改良工事。ソフト事業では史跡整備活用事業や地域公共交通モデル事業等。これまで大井手用水の改修工事は対象になってない。行政に確認する。	
	Q行：渇水高温対策にはどんなものがあるか？ A：京都府が「農業経営基盤強化（高温対策等）事業」の二次募集を行っている。野菜や水稻などが対象で、申し込みには条件がある。	

	<p>Q行：水道管の口径を20mmから13mmに変えられるようにすべきだ。</p> <p>A：市では口径13mmが約8,000件、20mmが約22,500件で20mmが中心。口径20mmは一度に13mmの約3倍の水をだせる。20mmのメリットがある。意見として伺う。</p> <p>Q行：けいはんな万博との共同事業として木津川アート2025をやっているようだが、なぜ木津川アートにずっと補助金が出ているのか？補助金団体の在り方に疑問を感じている。</p> <p>A：木津川アートは市の事業。木津川アートプロジェクトが市の委託を受けて実施している。これとは別に補助金の在り方について、市は補助金ガイドラインを作っている。</p> <p>Q議：沖縄戦・核兵器の廃絶に関する決議案などが否決されたのは疑問。木津川市は非核平和都市宣言のまちなのに、おかしいのでは。</p> <p>A：ここは議員個人の見解を述べる場ではないので、終了後に個別に聞いて欲しい。</p> <p>Q行：船屋浄水場のPFASの数値が高かったと聞いて不安になっている。暫定目標値50ngといっても国際的に見たら高いとも言われている。</p> <p>Q行：料金の値上げの前に、水道の安全を確保してほしい。</p> <p>A：現在、数値の高かった第一井戸からは取水していない。原因は不明。市民への周知は十分に伝わる方法を考えたい。</p> <p>Q行：今年3月12日に加茂町里で濁り水が出た。その水は安全なのか、飲んでも大丈夫なのか等情報が不足し混乱していた。公式ラインとか防災メールとか言われても、情報を得られない人もいる。給水車も2台しかないと聞いて、少なすぎるのではないかと思う。</p> <p>A：広報は十分だったのか、給水体制は十分だったのか。確認したい。</p>
質問・要望等で行政側へ報告すべき内容	<p><u>要望・意見</u></p> <p>○南加茂台にヘリポートを設置して欲しい。</p> <p>○非常時の広報・周知の方法を考えて欲しい。</p> <p>○水道料金の値上げに関して市民への丁寧な説明をして欲しい。</p> <p><u>質問</u></p> <p>○大井手用水の改修に過疎債が使えるのか。</p> <p>○給水車など給水体制は十分か。</p>
その他特記事項	

上記のとおり、報告します。

令和7年8月25日

木津川市議会議長 柴田 はすみ 様

令和7年度第1回議会報告会
第3班 代表者 森本 隆